

巻頭言

『立命館実践教育研究』創刊号の発刊にあたって

立命館大学実践教育学会会長

立命館大学大学院教職研究科長 春日井 敏之

2017年度、立命館大学大学院教職研究科実践教育専攻の開設を受けて、「立命館大学実践教育学会」が創設されました。本学会では、毎年秋に研究大会を開催し、院生、教員、修了生の方々を軸にしながら、教育委員会、附属校・一貫教育部、学校現場、専門機関など、大学内外で教育という営みに関わり教育・研究・実践に携わっておられる方々と共に、幅広くつながりながら実践研究、交流を深めていきたいと考えています。

本研究科は、5つの附属校に加えて京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の5つの教育委員会との連携協力によって、院生の教職専門研修やフィールドワークなどで、大変お世話になっています。また、独立行政法人教職員支援機構とも教員養成、教員研修の高度化のための連携協定を締結し、2019年8月には、朱雀キャンパスに「独立行政法人教職員支援機構立命館大学センター」が開設され、近畿ブロックの拠点として、近隣の教育委員会等と連携しながら、教員研修の高度化の実現を目指しています。

「平成30年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」（文部科学省、2019.10）が公表されましたが、暴力行為、いじめ、不登校という「問題行動」が、すべて大幅に増加していました。とりわけ、小学校低中学年での増加傾向が顕著でした。これをどう見たらいいのでしょうか。また、いじめ、体罰、虐待という子ども、教師、保護者に見られる「問題行動」は、どのように関連性をもって増加しているのでしょうか。重要な実践研究のテーマでもあると考えています。

私は、教育現場に立脚した臨床教育学を構築し展開するにあたって、臨床心理学、教育人間学に加えて、もう一つ実践教育学を柱にしたいと考えています。実践教育学については、「学校現場における教育実践の検討を通して、子どもの発達理解と成長につながる指導、支援のあり方の理論化、普遍化を図る実践研究を軸にした学問領域」として構想しています。その担い手は、皆さん方です。

このような中で、この度、『立命館実践教育研究』創刊号が発刊されました。これまでに開催された学会大会や研究科教育実践探究フォーラムの講演録に加えて、実践研究、院生の教育実践探究論文、図書紹介で構成されています。今後、修了生の皆さんを初めとして、大学内外で教育という営みに関わり教育・研究・実践に携わっておられる方々から、実践研究等が多く投稿されることを期待しています。

